



奇談

古今

中央草紙

一

七百四十九号
考冊

2067
1-6



13
2067
卷

隣りの方正先生余が文房子飲む侍小葉子
の葉あるを把て腕子其目を見て是城を云
足が徳に小どもあき屋の志あり此遊戯の
養子目を厭ふ魚一余函巻を蒲て笑ふ魚
先生の言是を余余よと此かのみ
説あり彼釋子の説るは此子が此地皆怪誕
として孫子教とある雲の物語は巨葉紙設けて
志を見し人情乃巨葉とあるは葉好葉
紙ハ怪紙初におるが如く此を道とる
此を是を道とるすとの世大進を感も人



Handwritten text in a small box at the top of the page.

之しは先をいふ人ハあを交あせむ明敷まつた
 とあまのく毛を悦登乃因あめを地珠と
 してこれを冠せて出た一人と交る者も地珠の
 意味も礼を服をせし易し查玉の巨耳
 後なる如謂は遠路千里の一人の王に余が
 覺ては利計馬に鞭打一夕新陳と遷されし
 然もりも留る形新乃維るうとく意難と久
 余は齋き一飯の民ありて耕いとまふたは西日
 此閑の時、此茶紙を祀して回社中の茶味子
 代るの中意とす原とり谷山は花て後七跡

竹の物にあつばといふともはあ義氣のそよよ
 をあまの者より平常を回て時の政と急り
 可洗の者越えてあまをさとす冬の前は秋
 乃深を志果礎のひびたは冬の前は思ふにゆ
 あハハ鄙言多て俗の儀となをこれより義
 は中いより我はそむる何えよ友の邊より
 深更を告るの能とあんと、土路り者子を
 派子の意なるなこい子足るれ者りてよ
 餘りあり此二人はして清誓のるをつねへはた
 夕も悦をへきなけ程とも風雅乃詞は疎

があまの文候を造るる者海一人とあれど
市街の通に在るる人幸にして狂舞妓
の茶紙を以て弱腕の君子詞の夜を
あいて英の道に寄すものかえりて
る生の十草何人の

寛政己巳の神夏十の節の主人
十の節の上の草を操る



古今奇談英単語紙摺目録

近路り者 著

子軍浪子 正

第一篇

後醍醐帝之御成敗乃法と折詰

第二篇

馬場求馬素と況へ種口が聲と成活

第三篇

豊原兼秋音と種く國の盛衰と知活

第四篇

黒川原を至山より通る得る活

第五篇

紀任重隆司より到る津嶽と新る活

第六篇

二人乃妓女越と異あり谷名と成活

第七篇

楠原心丸場より我より歌と制する活

第八篇

白水原が賣卜直言奇とある活

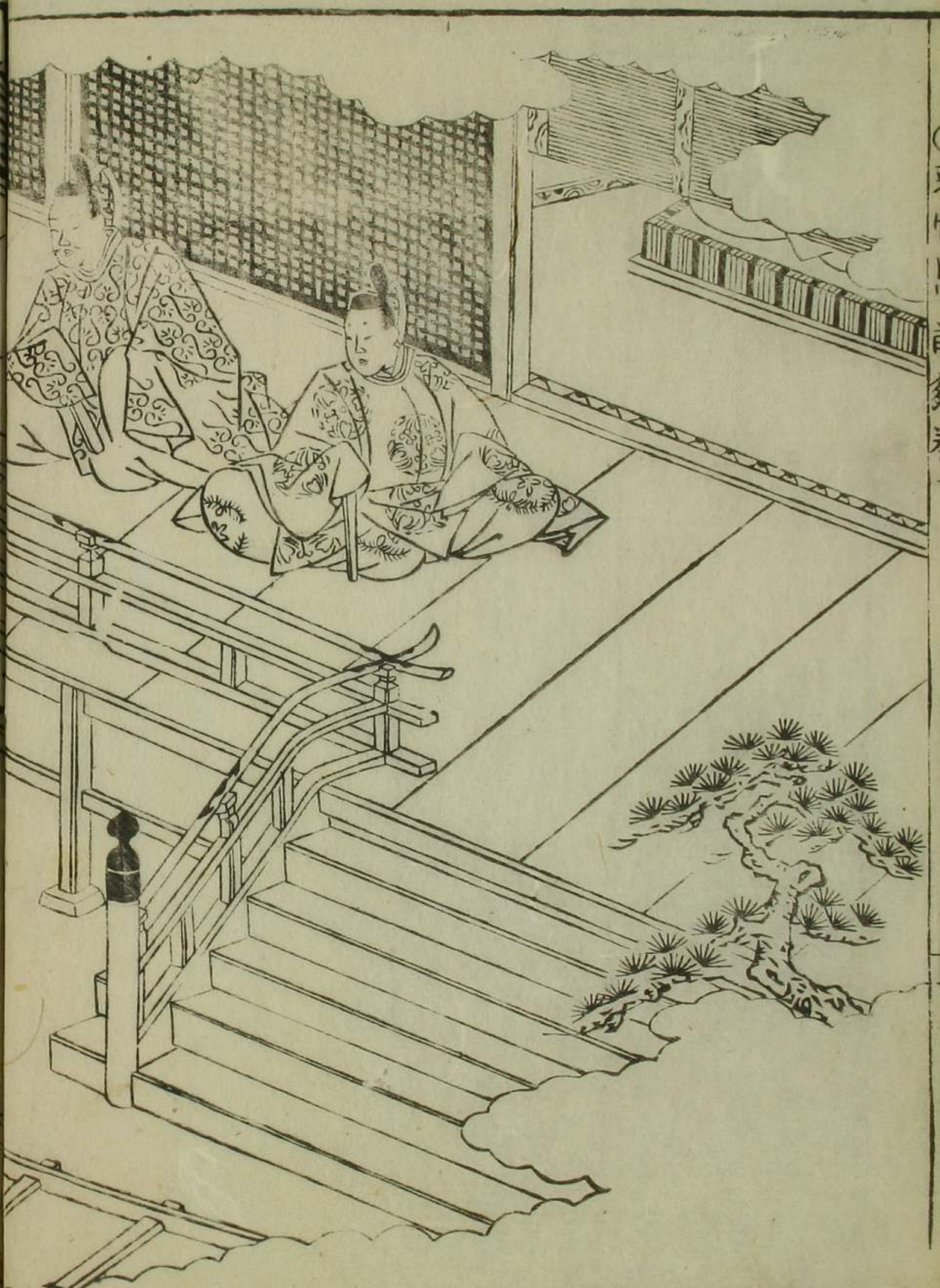
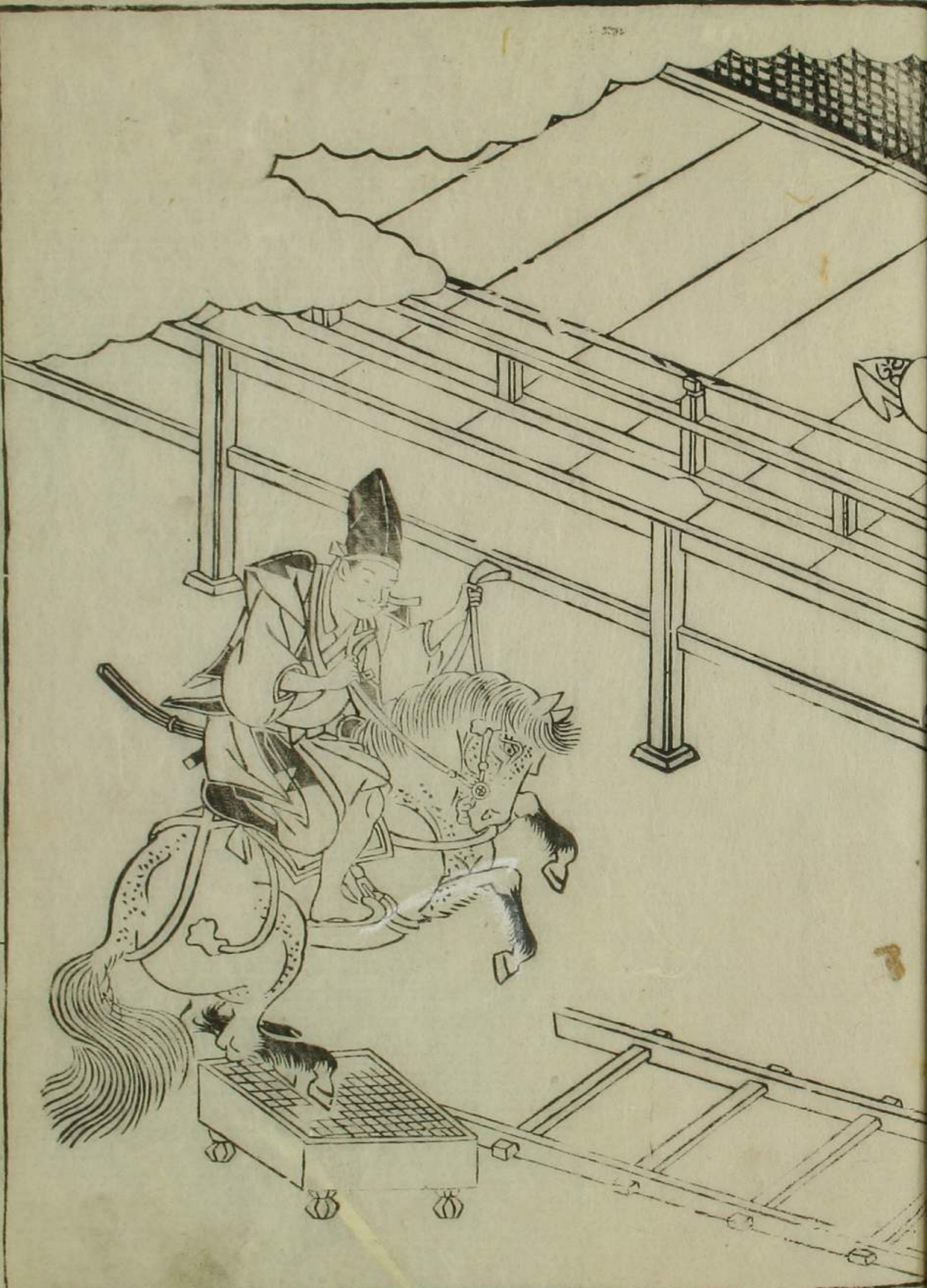
第九篇

多武蔵守牌を出して博とある活

一節の古歌と湯

あけまほふあつとつさるる海の水のせうらねともせとさへんか
 飯屋はちとんく博識の人なり種もいふしとらーやんかとあつそ
 色ちちるるといひもろく帝の影製りかじりといひい水の
 こもこふもんともたつてせがねとねく種しといふへそれとも水と
 つまはさといふしと速水の速の字ふ述のさかーと述しとら
 くらむ帝六小御所を換一次り日飯屋とてて東のか枕えてこま
 と述やちとあ飯屋何の飛ともいふも敷あふまを旅うらて
 いけうつりつりあさつたのせまらこもきんちぬ旅あめのかそく
 ゆきしてむさしの果あさたふかつとんせせばこも廣さこも
 土のざ青はなごてたためのせうぶあふとまきりまら末茶茶のまら
 しむいこもいひよまは海と川ある川の洞布とら玉川ふとこた

りど同釜を人かく川と目りつけてりども暖所の月を述も
 目南遠くゆけともく川とんえむいよあを同ー種なりわ
 いちとあやめつらうして一人り田まは行なうらや物まじふよ
 親流れ何とうが川とて尋あへい田更云いあり西ハ親又根ま
 海北の南の向が是故葉うまうりわはけいりいあつとむさし種と
 縦横十那は跨りこ角りきここの川あり玉川と玉川入同川
 あり年とら川とらつらりふらふら細き流まそそあ分の
 あまききとあく水ながつ種さうたかく多るとありそれゆへんあ
 どりく野りあつりの雲ふまを流しつら湯とらる海といあ
 ぶ川もあつれも目かさきることかーとそふ飯屋むふよんあ
 川と指す一も八田更顧てあつと云あれ川とらつらつらあ
 こも山岩よまくとあまらとらくわく地元のあはれいといとそも云夏ら



悪あはれふいふ一冊ともなりて一冊今もこしくつとる一冊
 又ふと一と倫言の多むる不測多きりあつねをを居居却るこよ
 洗はれぬ因にせねとせねと運きぬ角にり明あつる君もはれぬと(遊好目
 日よさうながきむけ胡廷治果なくも覚たばおあつて再三折檻
 乃後法をもくんとあつてとせひつとるなり一年を別治治判友が
 清より詔馬よりとして月毛の馬と進奉をこす形顔ハ難はる
 背をばりひひくは十二の星を毛脊解は連るおの年車も立て
 竹鼠判がこく一雙の眼珍を掛らると怪まると船印の別を別
 面用と敷て西の刻系もなこした七十六里騎のとれたるがこく
 風々まよてくる奴眼ひくまこくと美まも別たると案も表あ
 る湯飯車幸ありてけ馬と敷賢ありなる孫はくそ氏とらわく
 曲馬と案とく一ひ系人のくよ無むらと身幸あると海は天馬と
 いかゆる一敷意収と敷とく我物り天馬のあつと眼がせもゆきり
 かくと身あつ付たた皆云は是も瑞なり同の機主のせ八疋の天馬も
 乞り多くと地のかりよ同とつといり天馬ハ麒麟の類なれば是も眼
 乃法の形もあらうとと敷せとせたり物も居居のひもよとせ
 とと天馬の吉画を勅問あつ居居房すたれり天馬の本朝もあ
 こそ例をゆきば吾意ハ敷へとて無むらと馬吉車一の用もよと
 きり漢の文帝の時千里馬と敷とふ事是と云は帝主を
 日り三十里凶なりばふ千里意雲前ふりり属車後よりこれ揚り
 ふ星の後馬り案もともはるをりして帝主の國ふりゆらんやと宮々
 とけり同機八駿は駕して遠遊を好むの堂の礼はよとけり同の
 世の善らんゆめあり今大礼の後民貴人若てと下いますとあつと
 り人との得りと面とくを機政もかく福長言よ阿て國の免と

中へ大内裏と造り馬場殿と建てり深沼とくけ宸襟と併せりし
 功臣と美どり多しと思費を初りわたりて忠切堂とくせと合りの
 多し海日天下よお魚の幸ありし時天子は龍馬り駕しり馳下
 小倉に遊りやも群臣は後とわたりて只遠國よ意を告ぐ時
 自ら亦何れのことと是とよき次として深く進められ法長とて
 雲と旨海のうき雲も無かりして之と逆轉の気色まりして你
 見流して天るとお告ぐは你の積玉の八駿俱り皆同じ馬あり或は
 之能者矣ある何の書り是と出せんとおるや辰庵一語は
 此のあどたご因家の本紀をよみしんのことと銘と掲げせり
 八駿者之能異ありと拾畧記り是と出せり因統の八駿第一と
 絶地と名く馳り下蹄地と跋と第二と翻ねと名く所と死舎二
 越より第三と奇骨と名くお万馬を引て速けれ第四と超
 影と名く日の走と通てり第五と蹄懸と名く毛の色を柄
 輝第六と超走と名く形一つよして十の影あり第七と騰騰と
 名くおちりのりてゆく走る第八と捷翼と名く身と因の翅
 あり第九は八足の馬りたついのりて天地のありよめさるあり
 書供ふ今は一馬りの八駿の能を兼りりとも履いんと是と遠
 乃あり用て相攻と浴しや名細とせども欲と斬り身と殺り
 吾曲たぐいあり皆く用る人の禍福吾意り傳りりのりり你の捷
 吾くくく天下と概とらんとさうれじし親の任職王勇彰駿る
 とおして忠毒と換り後世を流して紫府ふ割ちて是
 とりくく吾ん毒をせんぞりの馬を忠を傳くとの代馬を
 忠をらるは或ととせられざるの時りあまりる辰庵事よこの言
 后のみをよ達しく政よ害あることと恐めど帝の言よ忠を云

東州前編卷六

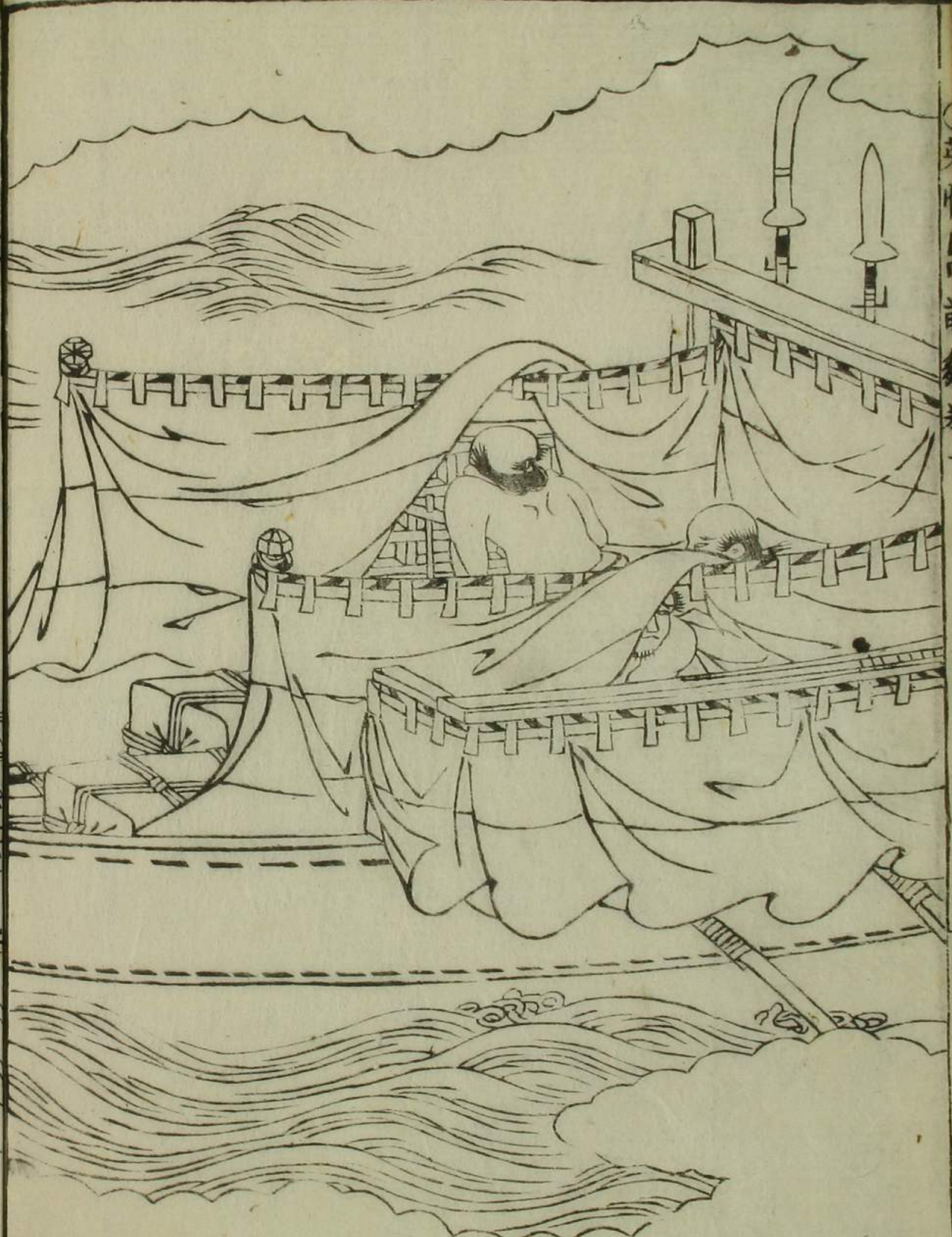
之とく、屯圮とる、梅とる、とけりや馬より遊凡子里の能あり
 美女り沉魚落雁の容有り、あはれくハ君二つあり、素、く、り、ハ
 ざん、く、と、希、為、厚、よ、四、極、と、言、南、く、進、人、は、深、く、想、く、け、内、良
 情、激、と、ひ、そ、く、と、歴、し、と、歎、く、你、沉、魚、落、雁、の、四、字、入、り、出、り、亦、と、知、や
 為、厚、言、沉、魚、落、雁、の、字、ハ、唐、の、宋、之、間、ハ、流、紗、錦、を、寫、勢、
 て、松、羅、又、入、魚、畏、て、荷、花、に、沉、と、詠、せ、し、り、如、く、美人、ハ、魚、も、
 と、ま、く、感、む、と、と、り、希、大、は、若、て、實、ハ、你、知、く、沉、魚、落、雁、
 と、美人、の、佳、称、と、ま、ら、ハ、元、是、深、あり、事、と、此、何、條、國、氏、の、深、く
 出、く、毛、嬌、柔、眼、ハ、人、の、情、不、美人、あり、事、も、魚、ハ、人、の、け、ら、い、だ、ふ、れ、
 深、く、く、終、も、人、不、迫、い、ん、ら、く、能、く、去、ら、人、ハ、屯、圮、と、進、也、
 魚、鳥、と、く、推、別、あり、事、と、い、つ、何、が、り、後、世、精、ト、深、く、く、
 美人、の、稱、ハ、你、故、事、と、り、く、朕、と、初、と、ん、と、あり、事、ハ、今、情、意、
 今、下、り、年、と、積、會、く、今日、け、る、陽、夜、ハ、遊、園、の、地、あり、也、你、が、飛、
 と、同、定、め、ハ、好、延、よ、あり、て、け、る、言、と、お、さ、く、飛、を、同、づ、と、と、か、ん、れ、
 ぐ、く、く、と、河、海、り、き、く、く、と、日、の、所、遊、ハ、板、や、ぬ、為、厚、ハ、筆、を、選、て、
 歎、じて、回、洛、世、の、期、呼、や、し、ん、ら、く、分、と、と、と、智、ハ、奪、り、用、ハ、亦、ハ、非、と、
 慶、よ、さ、く、中、友、及、女、の、言、勅、と、づ、と、よ、あり、事、と、進、ハ、自、た、と、進、
 水、ハ、下、り、去、て、く、く、ハ、帝、難、き、あり、事、と、父、の、言、厚、の、今、一、詔、て、
 こと、を、求、還、く、く、い、ま、く、も、ま、く、り、く、り、亦、と、知、く、ん、ら、り、め、ひ、ぬ、

二馬場求馬書と沈て樋口が聲と夜活

天文、以、ハ、江、州、觀、音、寺、の、澤、ハ、法、ハ、有、家、ハ、ハ、の、要、書、と、概、下、の、氏、人、
 七、團、之、の、概、所、の、餘、元、と、書、り、て、澤、也、よ、も、そ、ハ、法、儀、も、お、け、き、と、團、
 中、お、結、く、て、高、賣、家、業、よ、高、く、ハ、市、町、賑、發、四、民、枕、と、あ、く、ト、て、
 筆、ハ、池、れ、も、貧、富、ハ、人、の、命、あり、事、と、け、概、下、と、い、つ、も、と、さ、り、事、



多く又と馬と愛顧して馬と稱するものあり松代に於ては
ありて作しあり多と小と云々のを食うり毎月奉納の儀
あり細裁はるるの人の施るべき財に於ては粥と煮て食ひ
肉より集り多と奉納草紙と送る所例儀の儀に於ては
馬の家の御く解後て家畜はほひ様事と改る事と思はれ
ぬ四と坊々及てもい馬の馬具とのにれぬむむ此馬人
りあさるだ市に立途とめても己がトの乞食なり所
の殺ひする人なり只門と云うは馬より云うて氣遣言ふ
りいやく高橋家淑俊八類より入るき別の日と云く
しそ口情くれし時信はあふ小なり名と老義に子生は
りりて馬の儀と持揚太は傷うて是と小と云くは
との道しと法石浄無と云ひ所へ方成資四馬を以別
陸身して編りりも乞馬のりより云くはと云くは世の
淨無と云れは前の馬と云くは淨無年みすは除る事
ぬありと云くは男子は一人の女あり何名と幸と云く
がりりもせられ坊り敷ひかくと云くはりりは淨無
貴中の珠のじくたらぬよよと云くはわきりりは
はるまゝと云くはトと云くはりりてはるまゝと云く
はるまゝの儀と云くは是れと云くは淨無と云くは
この外は馬の集勅撰の形と云くは是れと云くは淨無
女の才と云くは自體して何人百性の中を知らずと云く
是れども是れ馬のりり云くは是れと云くは淨無と云く
何幸十八早妙と云くは是れと云くは淨無と云くは
て老蘇の里と云くは馬場求女と云くは一人の婦人
之祖お何と云くは若りて



人、面より引き去りたる場、口中よりつとまきて、我、何の罪ありてか、
 妖弄、や、枕持家の勢と、素弄、あ、わ、は、や、と、改、と、奉、と、者、の、内
 嫡妻、白、色、の、か、や、き、折、筆、は、胸、お、け、て、ま、る、る、婦、人、の、京、の、毒
 女、幸、が、あ、ま、し、も、遠、く、ど、る、傷、腹、穿、き、亡、妻、の、忠、意、あ、り、る、は、我、
 魂、ま、る、ま、る、あ、ら、び、や、さ、も、あ、ま、れ、そ、う、あ、る、我、罪、あり、今、又
 潮、そ、う、は、何、か、し、と、形、け、け、し、て、は、傍、の、女、と、皆、袖、と、掩、て
 如、少、う、附、植、は、奥、う、り、も、て、賢、者、物、と、や、め、よ、毛、を、そ、そ、夢、海、國、の、秘
 中、水、た、た、う、ひ、と、と、と、ぬ、い、あ、げ、て、奉、直、し、我、愛、女、か、り、馬、場
 ま、ま、と、く、お、ら、ま、き、と、ま、ま、と、ぬ、ま、と、播、て、我、愛、女、あり、何、と、も、
 あ、と、改、と、た、ま、ま、と、奉、直、し、梅、口、の、し、ら、ま、と、ぬ、ま、と、ま、ま、と、ぬ、ま、
 め、何、と、も、い、と、い、と、い、と、お、奉、直、し、る、涙、と、堪、く、罵、て、云、為、情、の、人、
 父親、の、脚、は、う、り、て、家、業、と、成、就、と、る、と、と、ぬ、く、思、と、思、つ、に
 とい、と、水、は、沈、め、ま、れ、と、も、天、の、情、あり、て、今、の、君、人、は、お、い、ま、い、
 奉、直、し、義、母、と、ん、と、何、の、形、あ、つ、く、你、は、思、つ、に、と、お、と、改、と、ま、
 馬、場、差、断、面、う、後、肉、口、言、は、さ、ら、と、信、て、あ、ま、り、わ、る、植、は、お、奉、と、改、
 云、今、賢、者、物、は、深、く、罪、と、悔、め、い、は、後、改、て、你、と、煙、慢、と、あ、你、ま、
 と、が、面、は、先、と、て、悔、と、な、ま、と、べ、し、梅、は、お、奉、直、し、も、ま、ま、と、ぬ、ま、
 あ、ま、と、改、と、り、幸、が、悔、と、罵、た、い、と、改、と、改、と、改、と、改、と、改、と、改、と、
 河、と、や、ら、う、げ、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、け、
 岳、家、の、罪、滅、と、悔、と、支、那、愛、と、改、と、改、と、改、と、改、と、改、と、改、と、
 悔、と、ま、ま、と、改、と、改、と、改、と、改、と、改、と、改、と、改、と、改、と、改、と、
 の、字、と、改、と、改、と、改、と、改、と、改、と、改、と、改、と、改、と、改、と、改、と、
 悔、と、改、と、改、と、改、と、改、と、改、と、改、と、改、と、改、と、改、と、改、と、
 宿、あ、ら、う、り、ぬ、け、後、る、傷、支、那、和、好、教、か、く、植、は、お、奉、と、改、と、改、と、

○天中前編卷一

十六

と云ふ父母はくく又觀音者より淨土とむふりてを美言して
孝と盡しし終つて美る馬場と樋口と女家由緒ある家とあり
あり業ありしりありありありあり

古今奇談英草紙第一巻終

